

「市民による薬局・薬剤師等の活用推進（健康サポート薬局の普及）」

応募チーム名：Pharmatching（ファーマッチング）してくれやす☆：京都府京都市

（特徴）

従来から考え方としてはありながらも、また 2016 年度から健康保険制度上も位置付けられたかかりつけ薬局・薬剤師の相談機能が十分に発揮されていない状況を課題と捉え、市民に健康相談の最初の窓口として薬局・薬剤師を利用してもらいやすくするためのサービス「Pharmatching」の開発を通して、医療費の抑制と社会保障制度の持続可能性向上、そして地域包括ケアにおける連携体制と住民の QOL の向上を図ることを目的としている。



（アドバイス）

1. プレホスピタル・セルフメディケーションを定着させるための科学的根拠を精緻化する

病院で医師によって出される処方箋なしでも症状の改善が期待されるような軽症患者や花粉症のような疾患については、なるべく病院に行かずに自分で市販薬を購入して治療するセルフメディケーションの考え方が重要とされていますが、どのような疾患のどの程度の症状に対して自宅療養を勧め、あるいは病院への受診を勧めるのかを判断するためのデータは、現状では十分に揃っているとは言えません。そこで、今回のアイデアの実現にあたって、ICT 技術等を活用することにより、薬剤師が判断に責任を持つうえでの科学的な根拠を明らかにすることが必要となるでしょう。そして、そのような根拠を発信されることで、これまでは薬局・薬剤師に相談する発想を持っていなかった市民が選択肢として相談しやすい環境が整うのではないのでしょうか。これによりともすれば大きい医療負担の間接的な軽減につながっていくことを期待します。

2. 理念に共感し、参加してくれる薬局・薬剤師の輪を広げていく

この取り組みを進めていくためには、活動の理念に共感し、患者の症状から適切な助言を行う医療的知識が豊富で、時間的・体力的にも新たな取り組みに参加する余裕のある薬局・薬剤師を徐々に増やしていくことが求められます。現時点では、チームメンバーの知人に声掛けをされているとのことですが、そうしたネットワークを活用しつつ具体的目標を決めてさらに活動の輪を広げていかれることを望みます。

3. ロールプレイ等を通じて患者の立場からサービスを客観的に見つめる

体調不良を感じた患者がこのサービスを利用しようと思った時に感じる可能性のある不安やハードルはないか、あるとすればどのようにすればそれが解消できるのか、といった点について考えながらデザイン思考的なロールプレイやシミュレーションを実施し、アイデアが広く使われるようになるための課題を改めて整理されてはいかがでしょうか。運営する立場と利用する立場、双方の視点から検討されることを望みます。

4. 京都市役所への期待

市民の健康状態に関するデータは、プライバシー保護の観点からオープン化にあたっては慎重な検討が必要であると考えられますが、この取り組みが地域医療にまつわる様々な課題の解決に繋がるような方法でデータを共有・管理する仕組み作りに着手されることを期待致します。また、行政の持つネットワークや広報機能を十分に活用して、取り組みに参加する薬局・薬剤師の確保にも役割を果たしていただくと良いのではないのでしょうか。